

# カリキュラムマップ（心理学科）

心理学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）											
<p>実社会で出会うさまざまな心理的な問題に対応するためには、幅の広い心理学の専門的知識やアプローチが求められる。</p> <p>甲南女子大学人間科学部心理学科では、基礎から応用まで多領域の心理学を一通り学ぶことができるようカリキュラムが設定されている。幅広い領域をバランスよく学ぶことで、実社会のさまざまな問題に心理学的に対応できる人材教育を行う。</p> <p>当心理学科では以下の6つの段階に分けてカリキュラムをデザインしている。</p> <p>【第1段階: 心理学的リテラシー】心理学について基礎的な知識を習得するとともに、実験心理学の手法や測定方法を学び、科学的な心理学の視点を獲得する。</p> <p>【第2段階: 実践・試行】第1段階の授業内容を応用し、自己や身近な問題に対して心理学的に考えるトレーニングを行う。</p> <p>【第3段階: 専門性】人間を理解するための様々な心理学的な視点を身につけるため個別の専門領域を学んでいく。</p> <p>【第4段階: アカデミック・ライティング】第3段階の専門的な視点を実用化するため、心理学的な現象を測定し分析する高度な研究手法やデータ解析について学び、科学的なレポートとしてまとめる能力を身につける。</p> <p>【第5段階: キャリアデザイン】それまで学んできた専門知識とこれから自分が目指す将来像の結び付けを行い、心理学の専門性を活かしたキャリアデザインを考える。</p> <p>そして、3年次では自分のキャリアデザインに応じて専門ゼミを選択し、4年次での研究課題に向けて、論理的な読解力や文章作成能力を身につけるための方法論や専門理論を中心に学んでいく。</p> <p>【第6段階: 能力の統合化と実践】3年次までに修得した専門科目の内容を、専門ゼミでの研究課題に取り組みすることで、さまざまな現象を心理学的に解明することができる能力として統合させていく。</p> <p>さらに、就職や大学院進学に向けてより応用実践的な科目を学び、実社会の具体的な問題に対応できる実践能力の向上を目指す。</p>											
心理学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）											
<p>1. 知識・理解</p> <p>(1) 人間のさまざまな行動の法則性や、生涯における心と体の発達、心理的な問題やその援助方法、人と動物の違いなど、様々な対象やアプローチの仕方をもつ心理学の領域を幅広く理解している。</p> <p>(2) 心理学の研究方法を正しく理解し、問題や研究目的に応じてデータ収集の仕方や分析方法を選ぶことができる。</p> <p>(3) 社会や日常生活で出会う問題に対して、学んだ知識をもとに心理学的な見地から考えることができる。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>(1) 実験や調査の実施を経験し、数量的なデータの収集や統計的な分析と考察、そして図表化を含め適切に結果を記述し、発表する力を身につけている。</p> <p>(2) 的確な情報検索により必要な資料や論文、専門書籍を見つけ、それらをもとに論理的かつ批判的な思考ができる。</p> <p>(3) 演習や発表などを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを人に伝える力を身につけている。</p> <p>3. 態度・志向性</p> <p>(1) 人の多様性を深く理解し、互いの個性を尊重しつつ、様々な境遇にある人への共感や配慮ができる。</p> <p>(2) 自分の知識や能力を社会の中で発揮するとともに、他者の力を借り、協力する姿勢をもっている。</p> <p>(3) 人は生涯、成長・発達していくことを前提に、その時々で必要な知識・技能を学び続ける姿勢をもっている。</p> <p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>(1) 困難な課題や逆境に直面しても、心理学の知識や身につけた技能を使って、問題解決に向けて対処することができる。</p> <p>(2) 社会や身近にある課題に気づき、自分が身につけた知識や技能を活用すると共に、他者と協働することで、社会環境の改善に貢献する姿勢をもっている。</p>											
心理学科のカリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目			
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
心理学概論Ⅰ(入門心理学A)	心理学は人の心を対象とした学問であり、その研究領域は多岐にわたる。心理学概論Ⅰでは、発達、パーソナリティ、臨床、福祉などの領域について、基礎的な知識や理論について学ぶ	1) 授業で取り上げる領域の基礎的な専門用語について、その意味を説明できる 2) 日常生活で体験する様々な心理的事象を、心理学の理論や知識と結びつけてとらえることができる	2○	1	前期	1	-	◎	△	△	△
心理学概論Ⅱ(入門心理学B)	後期の「入門心理学」ではテキストの後半部が授業範囲になる。心理学の基礎的な研究分野の中にはどのようなものがあり、それぞれの分野ではどのような研究がなされているかを概観する。	(1) 心理現象や心理機能の説明を読み、それが意味する専門用語を答えることができる。 (2) 自分が関心をもった心理現象などをわかりやすく説明することができる。 (3) 代表的な心理学の理論等を援用して、心理関連の日常的な問題に対する解決策を述べることができる。	2○	1	後期	1	-	◎	○	○	○
心理学統計法Ⅰ	文系の心理学科なのに統計？と驚いているかもしれませんが、心理学科で統計分析を学習するのは、心を分析するために必要だからです。心を分析するには、経験や直感だけでなく、データを読み解く分析的な思考が求められます。この分析的な思考は、社会人やセラピストになっても必要になるスキルです。  統計分析＝数学ではありません。数学が苦手でも大丈夫です。統計分析＝思考という視点で、自分のスキルアップとしてこの授業を受けて下さい。授業では難しい計算は避け、Excelを使って体験的に学んでいきます。統計を勉強するついでに、パソコンの情報処理能力も上がります。	本講義では、数学的な理解ではなく、思考としての統計分析を学び、その使い方をマスターすることに重点を置いている。そこで以下の5つを達成目標とする。 1 心理学を学ぶ上で必要な基本的な統計の考え方を理解する。 2 心を分析する上で求められる数的感覚を身につける。 3 論理的に考えて数字を扱う能力を身につける。 4 Excelを使った統計解析に慣れる。 5 数学アレルギーを克服する。	2○	1	後期	1	”統計分析を使って問題を解決”の課題において、統計分析を使い、データを解釈し、問題に対する提言を自ら考える取り組みを行う	○	◎	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1~4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
心理学基礎ゼミナールⅠ	心理学基礎ゼミナールⅠでは、心理学科で4年間学んでいくために、①図書館、コモンルーム、実験室などの学習環境を理解し、②勉強方法や課題への取り組み方についての学習スタイルをみにつけ、③心理学を適切に理解・解釈し、自分なりに表現することができるリテラシーを獲得することを目標としている。  そのために、心理学の学習の仕方や自習の仕方について、「個人ポートフォリオ」を活用し、自分なりの目標をもって実践する自己マネジメント能力をみにつけることが求められる。また、ノートテイク、テキスト講読、文章作成、グループワークなどの心理学の学びに必要なトレーニングを通じて、ロジカルライティングの能力、自分や他人の意見を分かりやすくまとめ表現・発表することができるコミュニケーション力をみにつける能力が求められる。	授業を通じて、自分の苦手な部分を見つけ、そこから一歩進むことからはじめ、次第にできるように変わっていきけるように努力して欲しい。 以下が到達目標である。  ・心理学の学びに必要な学習スタイルを形成する。 ・自己マネジメントの1つとして、今自分は何を学ぶべきかの学習目標をPDCAサイクルの中で考えることができる。 ・個人ポートフォリオを通じて適切な学習習慣の形成や自己マネジメントの実践経験を積む。 ・授業での演習体験を通じて、多様な視点から心理現象を考察できるようになる。 ・自分の意見や議論を人に伝えることができるコミュニケーション力をみにつける。 ・心理学を適切に理解し、解釈し、表現することができる”論理的思考”をみにつける。	2○	1	前期	1	ロジカルライティングの課題では、チャレンジシートを用いて、自らアイデアを出し、内容としてまとめるのに必要な論点を自ら考えて構造化し、レポートとしてまとめる取り組みを行う。	△	○	◎	○
心理学基礎ゼミナールⅡ	心理学基礎ゼミナールⅡでは、心理学を実践するために必要な基礎的な能力の獲得を目標としている。 各専門教員の領域に応じて、調査や観察、実験、インタビューなどのフィールド演習を行う。人の心理に関する身近な問題を題材としてリサーチクエスチョンをたて、データの収集を行い、結論を導くというプロセスを学ぶ。授業を通して、心理学的なアプローチの方法、データの整理の仕方、プレゼンテーションを行うスキルを身につける。	・人の心に関する様々な事象に興味をもち、その事象に関する心理学的な知見にアクセスし、問題に対する理解を深めることができる ・心理学を使って学んだことをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションができる ・他者と適切なコミュニケーションをとり、テーマの設定から発表に至る一連の手続きをグループワークとして遂行できるスキルを身につける	2○	1	後期	1	学生みずから、リサーチ・クエスチョンを立てて、データを収集し、その結果をプレゼンテーションする。	△	○	○	◎
心理学実験(心理学基礎実験Ⅱ)	「心理学基礎実験Ⅰ」に引き続き、「心理学基礎実験Ⅱ」ではさらに心理学の研究で必要とされる実験的方法の基礎を実習という形で学習する。全受講者を6班に分け、各班は2-3週でひとつの実習テーマを受講し、それぞれ2週後にレポートを提出する。実習のスケジュールを開講時に配付する。テーマは次の6つ。 (1)概念学習:人工概念の形成、認知的ストラテジー、内省報告 (2)心的回転:視覚刺激の回転角度が、同異判断課題へ及ぼす影響 (3)長期記憶:意味記憶、エピソード記憶、認知心理学の基礎 (4)フィールドワークの基礎:フィールドワークの技法と実践 (5)行動形成法:オペラント条件づけ、強化スケジュール (6)視覚イメージの操作・同異判断課題	心理学基礎実験の実験を行い、データを整理し、レポートが書けるようになる。	2○	2	前期		実験の実施、データの収集と分析、レポート作成	○	○	○	◎
心理学研究法(心理学研究法Ⅰ)	実験法を中心に、心理学の研究法の基礎と実際の適用を解説する。 実験のロジックといくつか代表的な実験研究を理解することで、受講生が自分なりのリサーチクエスチョンをもち、それに関する先行研究を調べ、新たな問題を検討するための実験計画を考案できることを目標とする。	(1)「科学的方法」を理解し説明できる。 (2)(1)を心理学研究に適用するときの問題を理解し説明できる。 (3)リサーチクエスチョンをもち先行研究を検索できる。 (4)科学的に妥当な研究計画をたてることのできる。	2○	3	前期	4	-	○	◎	○	○
心理調査概論(心理学研究法Ⅱ)	心理学研究法Ⅱは、心理学を知識としてだけでなく、これまで学んだ心理学を使ってさまざまな現実社会の問題を科学的に研究するために必要な内容を修得するための授業である。 残念ながらバラエティー番組やドラマでの、人の性格や相性を簡単に当ててる心理テストや、人の心を見破る読心術のような心理学といわれるもの多くは、明確な根拠や論理のない非科学である。同様に、新聞やテレビといったマスコミの世論調査もおかしな質問が用いられていたり、世の中の動向に対して間違った解釈がされていることが多い。このような、非科学の心理学や研究とは一線を画し、科学的実証手続きに基づく心理調査の観点から、世の中の問題を見られるようになって欲しい。 心理学研究法Ⅱでは、実証科学としての心理調査の方法論を学び、正しいリサーチ・リテラシーをみにつけることを目的としている。	授業終了時に以下の5つを習得していること 1. 研究の正しさを伝えるためには『結果』だけでなく『方法』も重要であることを理解する。 2. 因果関係と相関関係の違いが分かった上で、適格なリサーチ・クエスチョンや仮説が立てられる。 3. 正しいデータを得るための、適切な研究方法を選択できるようになる。 4. バイアスを排除するための、調査デザインを実施できるスキルをみにつける。 5. 科学的実証手続きとしての心理学調査法を理解し、非科学的な研究や世論調査の問題点を批判的にとらえることができる。	2○	3	後期	4	課題#1:調査の企画とサンプリングでは、授業で習った研究法に基づき学生みずから調査のデザインを考える取り組みを行う。課題#2:調査のグランドデザインでは、研究法に基づき、調査のデザインを学生自らが考える。	○	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1~4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
心理学ゼミナールⅠ	心理学演習1では、心理学を使って自分を磨くため、 ■自分の就職や大学院進学など自分のキャリアと心理学科での勉強について考える ■コミュニケーション能力の向上のためのトレーニング ■心理学の作法(研究方法や論文の書き方)について学ぶための、日本語のテキストや論文を読んでいく これら3つを通して、自分と心理学の関係、コミュニケーションの取り方、心理学の研究の仕方について学んでいきます。	ゼミを通して到達していただきたい目標は、以下の3点です。 1. なぜ自分は心理学を学びたいのか、自分の中での答えを見つける。 2. コミュニケーションのとり方を学び、面接に強くなる。 3. 心理学の実験や調査といった研究のやり方がわかるようになる。	2○	3	前期	3	学生自身が見つけたテーマに対して、プレゼンテーションの内容を考え、実践する。	△	◎	○	○
心理学ゼミナールⅡ	心理学研究2では、心理学を使って自分を強化するため、 ■プレゼンテーション能力向上にむけたトレーニング ■心理学の英語専門書を読む ■プロジェクト型研究を実践 を通して、心理学を使ってさまざまな問題に対応できる人材を目指す。	心理学演習2では以下の3つのことを目標とします。 1. 面白く、分かりやすく、伝わるプレゼンができるようになる 2. プロジェクト型研究を通して、実験や調査を自分たちの力だけで実践できるようになる。 3. プロジェクト型研究を通して、心理学を現場解決方法と役立てる使い方を考えられるようになる。	2○	3	後期	3	学生自身が見つけたテーマに対して、プレゼンテーションの内容を考え、実践する。	△	○	◎	○
卒業研究Ⅰ	業研究Ⅰ&Ⅱを通じて、実証的な心理学を徹底的に実践する。  一連の授業のねらいは、以下である。 心理学の理論的な発想を使って、社会のさまざまな問題に切り込める人材育成を目標としている。そのためには、1. 心理学の最新の科学論文を読み解けるリテラシー、2. 実証的な統計分析を行えるスキル、3. 心理学の方法論に基づく研究実践能力の習得が求められる。最終的には、心理学科で学んだことを強みに就職できる人材的価値を個々人が持つことを目指す。	心理学を知識としてではなく、実践できる能力として活用できるようになることを目的とする。具体的には、身近な疑問を実証的な方法を用いて心理学の研究を行える能力を身につけること。	4○	4	前期	4	学生自らが、研究計画をたてて、実証的な研究を行う。	△	○	○	◎
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ&Ⅱを通じて、実証的な心理学を徹底的に実践する。  一連の授業のねらいは、以下である。 心理学の理論的な発想を使って、社会のさまざまな問題に切り込める人材育成を目標としている。そのためには、1. 心理学の最新の科学論文を読み解けるリテラシー、2. 実証的な統計分析を行えるスキル、3. 心理学の方法論に基づく研究実践能力の習得が求められる。最終的には、心理学科で学んだことを強みに就職できる人材的価値を個々人が持つことを目指す。	心理学を知識としてではなく、実践できる能力として活用できるようになることを目的とする。具体的には、身近な疑問を実証的な方法を用いて心理学の研究を行える能力を身につけること。	4○	4	後期	4	学生自らが実施した実証的研究を、学術論文としてまとめる。	△	○	○	◎
心理測定法実習	基礎実験から発展させた形で、知覚・認知・学習・記憶・社会などに関する実験法の実習を行う。テーマの理解とともに各種実験法の習得を目標とする。	(1)各テーマの実験の意義と方法論を理解し説明できる。 (2)収集したデータに基づいて統計分析ができる。 (3)得られた結果を考察し、心理学の実験レポートを作成できる。	2○	2	後期	3	学生自らが実査を行い、その結果をレポートとしてまとめる	△	○	○	◎
心理調査法実習	質問紙の項目考案、調査票のデザイン、実査、集計・分析を行って報告書の作成までの一連のプロセスを学び、質問紙調査法のスペシャリストになる。	実証的研究手法としての調査法を学習する。本実習では、第1の目的として、データを正しく読み解き、社会科学の方法論に基づいた調査を実践するためのリサーチ・リテラシーを習得する。第2の目的として、実際に質問紙調査を企画し実査を行うことで、心理調査法の実践的な能力を習得する。 最終的には、本実習を通して、マーケティングやコンサルティング等の調査に関わる職に就いても十分に活躍できるようなスキルの獲得を目指す。	2○	2	後期	3	学生自らが、心理学の測定したい現象を考え、質問紙の項目考案、調査票のデザイン、実査、集計・分析を行って報告書の作成まで行う。	△	○	○	◎
公認心理師の職責	心の健康を維持・促進するための支援は近年ますます重要な課題となっており、そうした支援を行える専門職として、初めて国家資格化されたのが公認心理師である。この講義では、公認心理師を目指す受講生に、心理的な支援を行う際にどのような態度・技能・知識が必要かを概説すると同時に、心の専門家としての自己に対する洞察を深めることを目的とする。	・公認心理師が行う具体的な業務内容を理解すること ・公認心理師が援助を行う主な分野における関連制度を理解すること ・援助職に就くために必要な自己理解に取り組み、課題を自覚すること ・実習に出るために必要なマナーや心構えを習得すること	2	1~	後期	2	ロールプレイングを通して、心理学的支援について体験的に学習する	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
心理学的支援法	心理学的な支援における基礎的な理論・概念について学ぶ。	代表的な心理療法並びにカウンセリングの理論や概念を理解する 訪問による支援や地域支援の意義について理解する 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について理解する プライバシーへの配慮, 関係者に対する支援, 心の健康教育等について理解する	2	1～	前期	1	指定された図書を読んでレポートを作成する	◎	○	○	○
知覚・認知心理学(知覚心理学)	目で見る世界を科学的に理解するための基礎的な仕組みを理解する。知覚の基礎を学び、論理的な考察の習慣を身につける。	身の回りの出来事を講義で学んだことを生かし、論理的に分析、説明できるようになることを目標とする。科学的な背景に基づいた意見を持ち、自発的に発表することを心がける。	2	2～	後期	2	知覚の恒常性、錯視、心理物理測定に関する実演・解説	◎	○	○	△
発達心理学	生涯発達の観点をふまえ、人間が誕生し生涯を終えるまでの各ライフステージにおける、言語・身体・認知・社会性などの発達を学習する。また、それぞれの時期の発達の特徴や課題、障害についても取りあげ、発達にかかわる問題や困難についても理解を深める。	人間の発達を生涯発達という観点から捉え、人間の発達の可塑性、重要性を確認する。自らの生き方や子育てに関わる問題について再考し、自らがその課題について振り返ることができる力を養う。	2	2～	前期	2	発達心理学に関する専門用語等についての課題を、毎時間10分で実施する。	◎	○	○	○
教育・学校心理学(教育心理学)	教育心理学の基礎的な知識を学習し、教育場面への心理学的アプローチを理解する。教育と深い関係のある学習と発達を中心に、教育心理学に関する内容をとりあげる	1)教育心理学に関する基礎的な概念を説明できる。 (2)教育に対する心理学的アプローチを理解できる。 (3)(2)に基づき、独自に現代の教育に関する問題を考察できる。	2	2～	前期	2	—	○	○	◎	△
感情・人格心理学(人格心理学)	自分はどのような人間なのか、周囲の人々とのように似ており、どのようにユニークな存在であるのか。人間理解の中心となる枠組みである「パーソナリティ」について、重要な概念とその理論的背景、研究法などに関する重要なトピックを取り上げて解説する。	1 パーソナリティ心理学の主な理論について理解すること、2 人間理解の方法について理解すること、3 以上の理解を、自分自身の日常生活に位置づけられること	2	2～	前期	2	自身のパーソナリティを理解するために実際にいくつかの方法を体験し、対人関係における自己について考察する。	◎	○	○	○
学習・言語心理学(学習心理学)	学習・記憶の研究をとらえてわかる人間の認知過程の理解をめざす。代表的な理論・研究例そしてその土台となる研究方法(実験方法)を理解し、心理学的研究の発展における研究法的重要性も認識する。	(1)学習の基礎的なメカニズムを理解し説明できる。 (2)心理学研究における学習研究の位置づけを説明できる。 (3)学習研究で得られた知見を各自の関心に関連づけることができる。	2	2～	後期	2	—	◎	○	○	△
社会・集団・家族心理学	社会に存在するさまざまな問題を心理学で考えることをねらいとする。社会心理学を中心に、健康心理学、臨床心理学な隣接領域を取り入れて、実社会を心理学的にアプローチすることを学ぶ。現実問題へ一歩踏み込んだ心理学を学んでもらいたい。	対人関係の心の過程、「態度、行動、感情」、「家族、集団、文化の影響」の3つの視点で、社会問題、集団問題、家族問題について、心理学の視点で考えることができようになる。 具体的には、 1. 対人関係の問題を人間の認知の仕方理解できるようになる。 2. 自己を形成している心の仕組みを理解することで、他者に対して客観的に考えることができるようになる。 3. 人の行動を規定している態度の仕組みを理解できるようになる。 4. 態度や行動を変容するための心理学的なアプローチを理解できるようになる。 5. 集団の心理学的な機能について理解できるようになる。 6. 家族がもたらす影響について心理学的な視点でとらえることができる。 7. 文化やインターネットなど人取り巻く社会の心理的影響について理解できるようになる。	2	2～	前期	2	授業毎のインタラクティブアンケートで、自分の意見を述べる課題に取り組む。	○	○	◎	△
心理と福祉	臨床心理学の基本理念や方法を、実際の援助方法に取り入れている現場は、教育・司法・産業・医療・保健・福祉など様々な領域に及んでいる。中でも、保健・福祉の領域は、最も多くの最も多様な人々を対象としている。本講座では、保健・福祉領域における心理的問題と、それに対応している専門機関や専門職の役割と活動について学ぶ。それらを通して、援助を必要としている人たちの心理を理解し、支援していくための基礎的な知識と能力を身につけていくことを目的とする。	日常生活やボランティア・実習等の場面で、支援を必要としている人たちの心理を考察し、必要な場合は、ある程度の自主的な援助活動ができる。	2	2～	後期	2	福祉に関するレポート課題を授業を踏まえて自身で調査して作成する。	◎	○	○	○
心理学統計法Ⅱ	心理学でもちいる統計の基礎を学び、統計手法の意味や構造を理解する。さまざまなデータのハンドリングに慣れることで、実験など実践的な場面における適切な分析をおこなう力を身につける。	統計ソフトの操作を学び、データ入力から分析(おもに分散分析)までおこなうことができることを目標とする。心理実験で用いるさまざまな分散分析手法への理解を深める。	2	2～	前期・ 後期			○	△	◎	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
心理学統計法Ⅲ	大規模データや複数の変数から構成される多変量データを解析するための統計処理の技法について学習する。統計解析ソフトを利用して、相関分析、回帰分析、因子分析を中心に多変量解析の実践的なスキルの習得を目標とする。	授業では分析ごとに達成目標を設定する。 1. 相関分析では変数間の関連性を数値で表現することを理解できるようにする。 2. 回帰分析では原因となる独立変数から結果となる従属変数を予測する回帰式を構築し、数値の意味を理解できるようになる。 3. 因子分析では、変数と変数の間に存在する潜在変数を探索的に発見し、その意味を解釈できるようになる。 最終的には、マーケティング等の専門調査会社に就職できる程度の統計情報に対するリテラシーを身につける。	2	2～	前期・ 後期	2	3回の課題演習において、心理統計を使い、疑似相関の問題や、因果関係の予測、潜在的な心理の抽出について、自らの解釈を加える取り組みを行う。	○	△	◎	△
心理データ解析	コンピューターを用いて、実験や調査で得られたデータを分析するスキルを身につけ、その結果を報告できるようになることを目的とする。	1. データに基づき、記述統計量の算出や図表の作成ができる。 2. t検定や分散分析については、分析結果の記述、関連図表の作成ができる。 3. パワーポイントで資料を作成し、発表できる。	2	3～	前期・ 後期	3	—	○	○	◎	△
心理学特講	心理学の重要文献には、英語で書かれたものが多くあります。この講義では、多くの英語文献に触れ、英語文献の読解力を身につけることで、最新の研究成果に関する情報を得ることができるようになることを目指します。そのためこの講義は、発表を中心とした演習形式で行います。 この講義は、心理学系大学院、もしくは公務員心理職希望者の試験準備としての位置づけを想定しています	①関心のあるテーマに関する文献を適切に検索できる。 ②英語論文の表現や専門用語に慣れ、内容を理解できる。	2	3～	後期	3	—	△	◎	○	△
臨床心理学概論	臨床心理学の基礎について広く概観し、臨床心理学の歴史や様々な理論について理解する。公認心理師や臨床心理士といった心理学領域で活躍する心理職についての理解を深める。	①臨床心理学に関する基礎理論や専門用語を理解する。 ②臨床心理学的援助の実際について学習する。	2	2～	後期	3	臨床心理学に関する専門用語等についての課題を、毎時間10分で実施する。	◎	○	○	○
児童臨床心理学	臨床心理学を土台として子どもの心の発達、さまざまな障害や心理的問題に関する基本的な知識を習得し、さらに自身の内なる子ども性への気づき等も通じて、子どもの心的在り様について理解を深める。	記ねらいを基に学びを進めることで、子どもに対するイメージを広げ、子どもが持つ力を理解していく。それらを根に持ちながら子どもと真摯に向き合い、共感的に子どもとコミットし、適切に子どもの心理を理解し援助できる素養を身につける。	2	3～	後期	2	—	○	○	◎	△
グループ・ダイナミクス	社会心理学の中でも主に「集団」における人間の社会的行動について学習する。教育用の「仮想世界ゲーム」に参加し、そこでの体験をゲーム終了後の講義内容と関連づけることによって、社会心理学的事象を具体的に・系統的に理解することがねらいである。自己の体験となじみのない事象については、抽象的・断片的な理解にとどまりやすいことも指摘されているので、ゲーム中での積極さやゲームの世界に浸ることが重要になる。 同ゲームからの学びの可能性はさまざま、日頃の自身の集団行動について考察するだけでなく、世界の紛争や南北問題にまで考えをめぐらすことなども期待される。	(1)ゲームの中で異なる集団に所属していたプレイヤーの体験を聴き取り、社会的現実の多元性について報告することができる。 (2)自ら参加したゲームの中での出来事を、社会心理学の理論や知見を拠りどころとして、考察することができる。	2	3～	前期	3	ロール・プレイング型のゲーミングの体験	○	◎	○	○
障害者(児)心理学	さまざまな障害の特徴について理解し、どのような支援が有効であるか、障害種別に応じた教育や福祉・医療制度、就労の現状について理解を深める。身近にある障害者支援について目を向け、その目的を理解し、現状における不十分な点、改善点について考える力を養成する。	・さまざまな障害の特徴について説明できる。 ・障害児者への教育、福祉、医療の制度について説明できる。 ・グループワークを通して、身近な障害児者支援、その支援の不十分な点・改善点に関する情報収集をし、収集した情報をまとめて発表することができる。	2	2～	後期	3	グループワークにおいて、障害の理解や支援に必要な情報を収集し発表を行う。発表には、本学における障害学生支援の改善点や評価できる点についての内容を含めて行う。	◎	○	○	○
心理的アセスメント	心理臨床の現場において、性格や態度、行動傾向などの個人のパーソナリティ理解は、個人の抱える問題や援助の方法を考えるうえで非常に重要である。では実際に個人のパーソナリティはどのようなこととらえることができるのだろうか。この授業では、心理臨床領域でのアセスメントを中心に、その方法や目的、心理検査の特徴に関する講義や実習を通して、「個人差」を把握する方法について学ぶ。	1)パーソナリティを査定する方法とその特徴・限界について理解する 2)自分自身を含め、個人のパーソナリティを多角的にとらえることができるようになる。	2	3～	前期	3	アセスメントの方法を体験的に学習する	◎	○	○	○
応用認知心理学(認知心理学)	知覚から認知までのメカニズムの基礎を学ぶ。認知心理学を通し、客観的にものごとを捉え、科学的な洞察を身につける。	認知の仕組みを理解し、説明できる。身の回りの出来事を論理的に分析し、現象について考えることができる。	2	3～	前期	2	—	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
比較心理学	本講義では、認知心理学をはじめとした基礎心理学が、精神神経疾患の理解と支援にどのように応用されているかを紹介する。これらのテーマを通じて、領域をまたいだ科学研究に触れ、最新の研究動向について関心を持つ。専門にこだわらずに視野を広げ、論理的思考を育てる。	専門以外の領域についても科学的な議論をすることができる。他領域を含めた様々な実験手法を知ること、自分の研究手法に知見を取り入れることができる。	2	3～	後期	3	—	○	◎	○	○
神経・生理心理学	失語、失行、失認など、脳の局所病変に由来する症状について学び、大脳皮質などの脳部位と高次脳機能との関係について理解できるようになることを目的とする	1. 脳の構造と機能を解説できる 2. 授業で取り上げた専門用語を説明できる	2	3～	後期	3	症例のビデオから病態を 査定する	◎	○	○	○
司法・犯罪心理学	犯罪、非行行動について、基礎理論、犯罪統計、研究法等について知識を深めることで、社会の中で犯罪がどのように捉えられかということ、真実に現象面として生じている出来事との間の違いについて説明できるようになる。	1犯罪心理学の基本的用語を説明できる。 2犯罪とは何か、犯罪の実体的真実とは何かについて、理解し、説明できる。 3犯罪に関する心理学の近接領域(法学や社会学など)の知識や考え方を活用することができる。	2	3～	後期	3	授業中に犯罪心理学にか かる課題を提出してもら い、講義で各自の意見を 取り上げ、検討会形式で 講義を進める。	○	○	○	◎
福祉心理学	現行社会福祉制度の基本的な構造を理解するとともに、主要な法制度とその法制度の具体的な活用方法を学び、社会福祉に関する総合的な基礎力を身につけていくことを目的とする。	日常生活の中で起こる問題や課題に、どのような社会福祉制度が活用できるかある程度自分で考えられる。また、社会福祉系の公務員や民間法人の社会福祉専門職員を目指す場合に、必要とされる基礎知識がある程度身につけている。	2	3～	前期	3		◎	○	○	○
精神疾患とその治療	精神医学が対象とする病態で、特に女性に關係の深い精神障害について知り、理解できるようになる。	1.精神医学の専門用語が理解でき、説明できる。 2.精神障害に対する偏見がなくなる。	2	3～	前期	3	精神障害に関する種々の 問題について、予習をもと にディスカッションする	◎	○	○	○
心理学応用実習	基礎的な心理学の知識を実習形式で活用し、身の回りの出来事への心理学の応用方法についての視点を習得する	・基礎的な心理学の知識を説明できる。 ・心理学の知識を応用して実生活における諸現象の分析方法を案出できる ・心理学の知識を応用して実生活に活用する方法を案出できる	2	3～	後期	3	日常体験の中からテーマ を選び、心理学的な視点 によって問題と測定方法 を模索する実践型の演習 をおこなう	○	◎	○	○
健康・医療心理学	人の心の健康、医療・保健分野における諸問題を取り上げ、心理職に求められる役割や必要な支援活動などについて学ぶ。それらを十分に理解し、心理職としての実際の活動に活かすことが出来るようになる。	ストレスとその対処法、医療・保健活動が行われている現場や災害時などにおける心理社会的課題と必要な支援などについて理解し、説明できる。将来そのような現場で心理職として活動するのに必要な理解が得られ、活用できることを目標とする。	2	2～	前期ま たは後 期	2		◎	○	○	○
産業・組織心理学	産業・組織心理学は、企業や公的機関など組織で働く人々の行動や心理的メカニズムを扱う学問であり、それによって、個人と組織との最適な関係性を見出すことを目的としています。産業・組織心理学を学ぶことで、組織の一員として活動する際に、現場で生じる問題により効果的に対応できたり、問題を未然に防ぐことができたりなど、職場や組織に貢献できるようになることを目指します。また、多様化する社会や働き方に柔軟に対応していけるよう、働く人や組織が抱える今日的課題についても考察していきます。	1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、職場における問題に対しての必要な支援及びその方法について説明できる。 2) 組織における人の行動や心理について概説できる。	2	2～	前期	2		◎	○	○	○
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能を関連づけて正しく理解し、正常な状態が病気によって障害された際に起こる変化について理解する。	人体を構成する臓器系とその生理的働きを理解し、それらの病態(生活習慣病、感染症、難病、精神疾患、先天性疾患など)について述べる事ができる。	2	3～	後期	3		◎	○	○	○
関係行政論	公認心理師として活動していく上で必要となる、基本的な施策や法律、制度に関する知識を修得することを目的とする。	心の支援に関する全体像を、法律や制度の観点から把握し、公認心理師の専門職としての役割や、社会的使命について理解できるようになる。	2	2～	前期ま たは後 期	2		◎	○	○	△
心理演習	公認心理師が心の支援を行うために必要な基本的な態度、知識および技能の習得を目的とする。具体的には、援助の場面を想定したロールプレイングやグループワークを通して、要支援者との関わりにおいて必要となる傾聴技法や、コミュニケーションスキルを演習により学ぶ。	(1) 心理面接における傾聴技法を理解し、実践することができる (2) 要支援者との関わりや多職種との連携に必要なコミュニケーションスキルを修得する (3) 自分自身の聴き方、話し方の特徴を知り、公認心理師をめざすにあたって今後取り組むべき課題を自覚する	2	2～	前期	4	ロールプレイングを行い技術 の習得を試みるとともに、 事例を元にプロブレムリス トを作成し、自ら課題を發 見し、解決方法を模索す る。	○	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1~4高)	アクティブラーニング ※の実施について (具体的にお書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
心理実習Ⅰ	心理実習(「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)では、公認心理師が活躍することが期待されている分野の施設で主に見学などによる実習を行う。実習にあたっては、「心理実習Ⅰ」の授業時に事前指導を行い、各分野・施設についての予備知識や実習するための態度・倫理を身につけてもらう。実習後は、自分が経験したこと、学んだことを記録にまとめてもらった上で、事後指導で深い理解につなげていく。	次の3点について、学外実習の経験をもとに基本的な知識や態度を身につける。 (1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (2) 多職種連携及び地域連携 (3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	1	2~	後期	3	-	○	○	◎	○
心理実習Ⅱ	心理実習(「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)では、公認心理師が活躍することが期待されている分野の施設で主に見学などによる実習を行う。実習にあたっては事前指導を行い、各分野・施設についての予備知識や実習するための態度・倫理を身につけてもらう。実習後は、自分が経験したこと、学んだことを記録にまとめてもらった上で、事後指導で深い理解につなげていく。	次の3点について、学外実習の経験をもとに基本的な知識や態度を身につける。 (1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (2) 多職種連携及び地域連携 (3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	1	3~	前期	4	-	○	○	◎	○
心理実習Ⅲ	心理実習(「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)では、公認心理師が活躍することが期待されている分野の施設で主に見学などによる実習を行う。実習にあたっては事前指導を行い、各分野・施設についての予備知識や実習するための態度・倫理を身につけてもらう。実習後は、自分が経験したこと、学んだことを記録にまとめてもらった上で、事後指導で深い理解につなげていく。	次の3点について、学外実習の経験をもとに基本的な知識や態度を身につける。 (1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (2) 多職種連携及び地域連携 (3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	1	3~	後期	4	-	○	○	◎	○